

釧路のシャチとザトウクジラを シンボルとした海洋生態系保全のための パッケージ活動

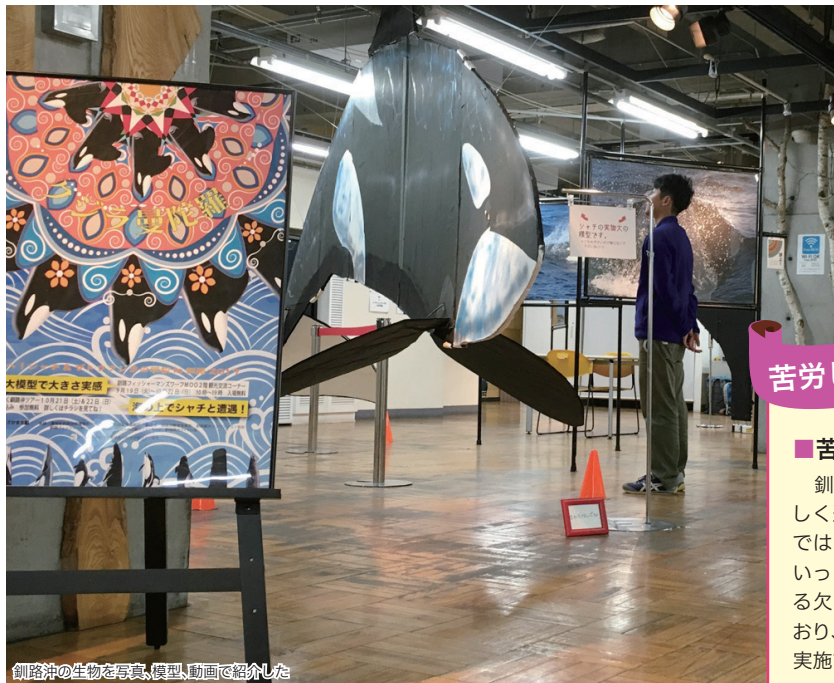
〒051-0003
北海道室蘭市母恋南町2-27-9
電話:090-8426-1257
E-mail:snatsuko@cocoa.ocn.ne.jp
<https://www.facebook.com/orca.org/>



ひろげる助成

3年目

調査研究



釧路沖の生物を写真、模型、動画で紹介した

全てのイベントにおける
参加人数

1,580人

マスメディアに扱われた回数

14回

今年度計画の達成度

90%

活動の全体目標に対する達成度

80%

苦労した点と工夫した点



■ 苦労した点

釧路沖はもとより荒々しく過酷な海だが、近年では台風や大型低気圧といった激化する気象による欠航の頻度があがっており、市民ツアーや調査の実施で苦労した。

■ 工夫した点

市民ツアーや展示の開催については報道の力を借りて、より広い告知にとめた。イベントや鯨類との遭遇情報はSNSなどで外部へ発信し、新鮮さを保つよう配慮した。

課題

希少な鯨類が次々に現れる国内随一の海洋環境を誇る釧路沖だが、その価値の認知度は低く、これを保全するためにまずは現状を調査し、成果を広く伝えることが必要と考えた。

目標

海洋環境や生物について地域内外に伝えることで、これらを宝物として守りながら教育や地域振興に活用していこうとする取組みが、地域住民を主体に始まることを期待した。

活動内容と成果

上記課題解決に向けた今年度の取り組みは

①鯨類を中心とした海洋生物の出現データを収集。12航海でシャチ、ザトウクジラなどを観察・記録した ②地域住民への啓発活動としての市民体験ツアーを実施(2航海で市民25名を招待。カマイルカやザトウクジラと遭遇) ③地域住民と観光客のための海洋教育展示(写真・模型・動画などで構成。約一か月間で1320名が来場) ④座間味、小笠原など他海域との情報交換 ⑤官民共同のエコツアー導入の試み(JTBなどと連携)で多様な内容をパッケージに活動全体を構成した。



市民ツアーではカマイルカやザトウクジラと遭遇

全助成期間の活動を振り返って

今では、地域住民、行政いずれも私たちの活動開始前(釧路沖が海洋生物の宝庫だと知らなかった頃)とは全く異なる目線で海をみつめてくれるようになったと思う。では、彼らが保全の主体者として海と向き合うようになったかといえば、それにはまだ及ばないと感じている。つまり私たちの最大目標の一つである「地域に、主体者としての責任や義務をもって海と共に生きようという意識を醸成する」には、活動はまだ不足ということだ。



調査ではシャチ、ザトウクジラなどを観察

今後の展望

来年度以降も、この魅力的な生きものに満ちた海が住民にとって、いかに身近な存在であるかを根気強く訴え続け、彼らは決して観光客と同じではなく、観光客と向き合う立場＝釧路の海洋生物と共に生きる立場であると、しっかり意識してもらうこと・・・そこを一丁目一番地に据えた活動を展開したい。まずは釧路市民こそが、経済、教育、文化の創出にこの海を活用する権利と義務を持っているのだという誇りをもっていただければと願う。